

## 地域密着型サービス外部評価結果報告書

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会が実施した下記の事業所の外部評価の結果をご報告します。  
この報告を貴事業所におけるサービスの質の向上に向けた取り組みの一助としてご活用いただき、地域における認知症等高齢者の生活・介護等の拠点として一層ご活躍されることをご期待申し上げます。  
また、本報告書は、以下のような場面などでご活用ください。

- ・ 利用申込者またはその家族に対する重要事項等の説明
- ・ 事業所内の見やすい所への設置または掲示
- ・ 運営推進会議など関係者への説明

法 人 名	社会福祉法人 聖徳園
代 表 者 名	理事長 三上 了道
事 業 所 名	グループホーム あわら聖徳園
評 価 確 定 日	2021/2/22

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890800012
法人名	社会福祉法人 聖徳園
事業所名	グループホーム あわら聖徳園
所在地	福井県あわら市田中々3-25-7
自己評価作成日	令和 2年 12月 25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和3年1月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に同法人が運営しているこども園・児童家庭支援センターがあり、それぞれの事業所を利用者している子供達との交流があり利用者の楽しみとなっている。1階にある小規模多機能と連携を図り外出・行事などを一緒に行う機会を持つことで沢山の方と交流を持てるようにしている。今年はコロナの影響もあり実施出来なかったが、普段は利用者の希望を伺い外食会・外出などを実施したり、恒例行事として四季を感じられる花見・紅葉狩り・敬老会・クリスマス・忘年会・新年会など利用者が楽しめる企画を実施している。地区の行事にも積極的に参加する事で地域の方との交流が出来る機会を設けている。職員が利用者一人一人に応じたその人らしい楽しみのある生活が送れるように個別支援にも取り組んでいる。(リトミック・音楽療法・料理教室・習字教室など)出来る事を継続して頂けるように普段の家事の手伝いや歩行訓練を兼ねた散歩なども日課に取り入れている。(コロナ禍の中で実施出来ない場合は施設内でのレクなどに力を入れている)

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は平成21年7月1日に開設された事業所である。あわら市温泉街から東南に位置する、比較的静かな住宅街に立地しており、住宅街の一面に同法人が運営する「認定こども園」、「児童家庭支援センター」、「母子生活支援施設」と、敷地1階の「小規模多機能居宅介護事業所」の2階に、当事業所がある。法人理念「福祉観3箇条」にある、(1)高い専門性、(2)良質な利用者生活、(3)地域との福祉の係わりに取り組み、地域福祉・貢献の一翼を担う事業を展開している。特に、介護予防教室「いきいきサロン」を開催したり、地区のイベント活動(奉仕活動、体育祭、夏祭り等)に積極的に参加し、利用者+F14:G15の生活圏の確保、地域住民との交流を深め、安全に安心した生活を送るための様々な支援活動に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢になっても障害を持っても住み慣れた地域で自立した良質な生活を過ごせるように支援します」と言う理念に基づき取り組んでいる。法人手帳に記載されており各会議の際には福祉観を唱和し職員全員が理念と姿勢を確認している。	法人理念に基づいた取組みと、法人手帳に記載している「福祉観」を各会議毎に唱和し、事業所独自の年度目標(品質目標)を作成している。同時に、法人の基本姿勢と経営方針及び、各事業所の基本姿勢を常に確認し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り・体育祭・奉仕作業などに参加している。地域の自治防炎会にも加入し災害避難場所として受け入れている。介護予防教室に参加されている方は事業所の行事などの手伝いを行っている(本年度はコロナの影響で実施されていないので参加は出来なかった)	地域の自治会に加入し、事業所は災害避難場所に指定されている。コロナ禍の影響で地域行事は減少したが、介護予防教室の方々の応援を得て、個別支援を中心としたリトミック、音楽療法、料理・習字教室等を行うことが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての話をしたり、介護予防教室に来て頂いている地域の方々に向けて認知症についての研修などを実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の方々やご家族・行政の方・可能な場合は利用者に参加して頂き様々な意見・要望・助言等を頂きサービス向上に努めている。	2か月毎に市社協、民生委員、地域包括支援センター、区長、家族の方の都合を確認し、平日の午前中に行っている。利用者状況、行事、コロナ取組み状況を報告すると共に助言や意見を聞きサービス向上に繋げている。また議事録はフローアに置き、閲覧出来るようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が開催する定例会に可能な限り参加するように努めている。運営推進会議にも参加して頂く事で当事業所の取り組み・運営を理解してもらえるようにしている。	市や関係機関との連携は定例会議等によって日常的に行っている。運営推進会議を含め、市職員や他施設との情報交換の場を設ける等、積極的な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対し身体拘束についての研修を行い身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。今までにも身体拘束を行った事は1度もない。しかし利用者の安全を確保するために施錠を行う事もある(2Fの入口の扉が建物の構造上、開けるとすぐに階段になっていて危険な為)	身体拘束及び虐待防止等の外部研修への派遣と復命書の作成と回覧を行っている。内部研修も開催し、拘束予防マニュアルはフローアに設置し拘束ゼロケアの実践に日々取り組んでいる。事業所が2階にあり、安全確保のため階段出入口は常時施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修を通して勉強会を行っている。虐待は決してあってはいけない事で徹底しており、細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に後見人制度を利用している方がおられ分からない事があった際には話を伺ったりして理解を深めた。後見人制度についての研修などにも職員が参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い納得して頂いている。不安がある方や希望される方には体験宿泊なども行い安心して利用できるように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。他に年に一度アンケートを実施して利用者・ご家族の意見・要望・希望を伺い運営に反映出来るようにしている。アンケートはフロア内に置き閲覧出来る様になっている。	家族へ年2回の定期アンケートを実施し、運営やケアについて意見を得ると共に、家族と担当職員とが電話連絡等の機会を得た情報を、職員間で共有するよう努めている。アンケート結果は、フロア内に置いて閲覧できる。また運営推進会議で報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回フィードバック面接を行いその際に職員の意見や提案などを聞く機会を設けている。その他にも職員会議・全員ミーティング・通常の勤務時でも必要であれば意見を聞くようにしている。	人事考課によるフィードバック面接や自己申告書を利用し、施設長・管理者との意見交換が行うことができるシステムが整っている。更に、日常的な職員会議、推進会議、運営会議、サービス担当者会議、給食会議等を通して意見を述べる事ができる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・フィードバック面接を行い職員個人個人の意見や思いを聞く機会を設けている。その際に意欲を持ち業務に取り組めるように必要な助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り希望する研修へ参加出来る様にしている。職員が講師となり内部研修を開催しておりトレーニングも行っている。法人内の研修へも必要に応じて参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限りケアマネの定例会や勉強会を通して情報交換を行ったり、他事業所への訪問も行い連携を取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族と話し合う機会を多く持ち「私の気持ちシート」を作成し本人の思いや考えなどを理解出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に相談受付を行っていて利用者は勿論の事、ご家族の希望・要望などを伺い良い関係を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前に体験で宿泊を行って頂き、本人に必要なサービスであるかどうかを見極め、宿泊体験の様子をご家族に報告して必要な支援であるかどうかの話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除・洗濯・ゴミ捨て他に一緒に作品づくりなど職員と利用者が一緒に行い共同生活の中で家庭で生活しているような環境を作り出していく努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間の規制を設けずに自由に来園して頂いて来園時には話をする機会を持ち、何かあればすぐに連絡する体制をとっている。家族参加の行事や外出の機会を持ちコミュニケーションを図っている。コロナ禍では、電話連絡を密に行い状況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と地元のお店に出掛けたり、友人・知人が来園された際には御家族の了承を得たうえで外出も支援している。コロナ禍では別室の相談室にて面会したりして関係性を保てるように努めている。	利用者と地域との関わりを保つことができるような配慮に努めている。コロナ禍であっても、相談室の安全利用ができる環境を整えたり、外出希望にも応じることができるよう創意工夫に努めている。家族や知人等の希望に応じて、安全確認の上で面会が可能である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がレクや日々の生活を営む上で関係性が良好になるように相性や好みなどを考慮している。利用者同士がお互いの部屋を行き来して世間話などしている姿も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、暫くの間状況を伺い必要に応じて相談なども行ったり、他施設に変わられた際には施設を訪問したりして可能な限り関係性を保てる努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話をする機会を多く持ち、普段の様子や言動などにも注意を払い本人やご家族の思い等の把握に努めている。心身の情報(私の姿と気持ちシート)を用いて本人の思いをより理解出来る様に努めている。	生活面や本人の意向を把握するために、事業所独自の「心身の情報(私の姿と気持ちシート)」や、「できることできないことシート」等を3か月から半年ごとに作成し、職員は利用者の思いをより具体化し理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活の中での利用者との会話やこれまでの生活歴・環境の情報等を得て記録に残したり、ご家族の来園時に話を伺ったりして把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で本人の身体的・精神的変化に職員が気付く事が出来るように注意深く観察し、状況の把握が出来る様に努めている。日々の状況を処遇日誌に記録して職員全員で周知出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況を把握し、本人・家族・担当者・ケアマネとの話し合いの中で計画書を作成。本人の意向が定かでない場合にはご家族との話し合いの中で状況に見合った利用者にとってより良いサービスが出来る様に提案を行っている。	利用者の担当制を実施しており、毎月行っている本人・家族・担当・他職員とのモニタリングとケア会議での意見交換、更に、3か月毎にケアマネジャーとのサービス担当者会議を行い、年4回の個別支援計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは記録に残し、職員間で共有している。毎月のモニタリングを行いサービス内容が適切かどうか見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の状況を考えて可能な限り必要とされる支援に対応出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源は把握する努力は行っている。しかし利用者全員が心身の力を発揮出来ているとは言えない。今後は今まで以上に地域資源の活用にも目を向けて行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報交換を行っている。必要時には往診を行って頂いたり、職員が受診に付き添うなどしている。状態に変化が見られた場合には主治医に手紙や電話などで連絡を行っている。情報共有システム(カナミック)の研修にも参加している。	利用者全員がかかりつけ医に受診している。基本は家族が受診に同行するが、職員同行もある。対応職員が家族へ直接連絡している。あわら市と坂井市とは、医療介護連携支援システム(カナミック)を提携しており、職員と主治医との連携体制が整うように研修を行い、準備をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHには常勤の看護師はいないが、1Fに勤務している看護師がGHの利用者の体調や薬に関して把握行っており必要な際には助言や指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には情報提供を行い、退院時に病院へ出向き看護に生活に必要な指示を受けている。退院後も受診の付き添いを行っている。入院中は可能な限り病院へ出掛けて状況を見守っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の事、看取りは実施していない事の説明を行っている。状況が悪化した場合は早めにご家族との相談を行い必要な措置を取っている。その際にも次の生活の場を探す手伝いをさせて頂いている。	契約時に、重度化した際の対応、看取りは実施しないとの説明を行い、全家族の同意を得ている。状況の変化に応じた家族との相談と必要な措置への体制、次の生活の場を探す手伝いを実施している。基本的には、家族に納得してもらえるよう努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時シートの手順書を作成し緊急対応シートを準備し急変時の対応に備えている。研修なども行い急変時や事故発生時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。その中で年2回は消防署立ち合いの下で実施している。地域の自主防災会にも加入して防災訓練にも参加している。	地域自主防災会へ加入し、総合訓練に参加している。緊急連絡網やマニュアルを整備し、各種災害の避難訓練、不審者対応も含め毎月実施している。地域総合防災訓練に青年団数名が来るが、毎月の応援には来ない。食料、水、備品の備蓄は、1・2階の3日分が1階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を毎年の研修項目に織り込み、プライバシーの確保・利用者に対する対応・声掛けなどの配慮を怠らない様に心掛けている。	個人を尊重するマニュアルを整備し、声かけ等の研修会を実施し、ケアに反映している。利用者や家族の希望に応じた対応を行っている。個人情報、台帳等の書類の保管は、他者が見ることができないよう鍵付き倉庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを大切にできる様に声掛け・促しを行い働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースに合わせてその人が望む暮らしができる様に本人の気持ちを考慮して支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣類の交換の際にはご家族の了承を得て利用者と一緒に買い物に出掛けたり、訪問美容サービスに来てもらったりして身だしなみには気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付けなど出来る事は一緒に行っている。利用者の希望を聞いて外食や出前をとったりして楽しみの一つとなっている。料理教室にもみんな一緒に参加して頂き出来る事を行なって頂いている。	御飯と味噌汁は事業所で調理し、他は業者が作っている。希望食出前、外食は月1回程度実施している。料理教室でおやつ類も提供し、事業所内で畑を作り収穫し、配膳、片付等は一緒に行っている。箸、ご飯茶碗、湯呑は各個人の物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食事量の把握を行い記録している。水分摂取にも気を配り脱水にならないようにしている。必要に応じて食事の形態を替えたり代替品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後の歯磨きは出来る方には声掛け支援を行っている。出来ない方には必要な口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を洗浄液に浸けて清潔を保ち、食事前の体操の際には口腔体操を取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツ使用でも出来るだけトイレにて排泄出来る様に時間を見てトイレ誘導・声掛けを行って自立に向けての支援を行っている。	24時間シートの活用で、利用者個々の排泄パターンを把握・共有する事で、事前の声かけを行い、トイレでの排泄を促したり、オムツや紙パンツの使用であっても、利用者自身が自然とトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが必要な方には主治医の指示に応じて支援を行っている。排便チェック表をつけて状態を把握し、おやつ時に果物を提供したり水分不足にならない様に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1対1での入浴の為、職員と利用者とのコミュニケーションがとれてゆっくりと入浴を楽しむ事が出来ている。汚染や汗をかいた時などは臨機応変に対応しシャワー浴や入浴して頂いている。	利用者の状況にもよるが、基本的には午後から職員と1対1でゆっくり入浴している。利用者の状態に応じ、風呂用車椅子を利用したりリフト浴が可能で、季節を感じる菖蒲湯や柚子湯にしたり、また、状態の良い利用者との入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンなどを利用し室温の管理を行い快適に休んで頂けるように支援している。特に就寝時間を決めずにその人に合わせた生活リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個別にファイルして急な場合でも確認出来るようにしている。薬に変更があった場合には処遇日誌に記載し職員全員が確認・周知するようにしている。服薬確認表を作成しダブルチェックを行い服薬ミスが無い様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの時に本人・ご家族から話を伺ったり、日々の生活の中で気が付いた事を職員間で話し合い、楽しみや生きがい・やりがいのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナの影響がありなかなか実施出来ていないが、通常はでは日常的な散歩・買い物他に本人が希望される場所(お墓・畑等々)へ可能な限り出掛けられるように個別でも支援を行っている。地域の行事にも参加行い、家族参加の外出もしている。	コロナ禍の影響はあるものの、法人理念にある「地域に目を向け、福祉の係わりを見つけ取り組む」を考えた個別的な外出支援を、家族にも声を掛け参加を得られるよう依頼している。また室内での体操やリズムの時間にも力を入れている。	地域住民の協力が得られるよう、地域住民のボランティアを受け入れることで、地域公益活動に繋がると考える。今後、より多くのボランティアの方が参画できる体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望でお金は園で預かっている。買い物の際には本人が支払いを行うなどの見守り支援を行っている。出納帳を作成し定期的にご家族にも確認して頂いている。毎月収支報告書を書面にしてお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話が掛けられるようにしている。絵手紙や年賀状なども制作してご家族や友人に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと職員共同作業で制作した季節の貼り絵や飾り物の作品をフロアに飾ったり、春には出窓に季節の花を植え季節感を感じている。写真や習字なども飾っている。エアコンを調節したり換気を定期的に行うなどして室温にも配慮している。	ホール内は、木調的で清潔な落ち着きがあり、季節感のある貼り絵、似顔絵師の資格を持つ職員が描いた達筆な全員の似顔絵作品等と調和し、温かな空間の中でゆっくりとした時が流れている。利用者の動きも同調し、穏やかな共用空間が生まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは各個人の場所が決まっている。しかしゲームやレクをする際には場所を替えたりして工夫している。休みたくなったら自由に部屋に行かれゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた物を持参されたり、家族の写真を飾ったり、ポスターを貼ったり自由に飾り付けされている。	居室は、トイレ・洗面所・ベッド・ドレッサーや整理棚があり、また、馴染みの家具等も持ち込み自由にレイアウトしている。利用者の制作作品を飾るなど、清潔で落ち着いた雰囲気となっている。家族や孫・ひ孫の写真を飾るなど、利用者の特徴が出ているプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の能力を理解・把握し、それに基づいてそれを生かせる環境を整え、安全に生活出来る様にしている。		